

「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」ロジックモデル

現状と課題

論文数に関する我が国の国際的地位が質的・量的ともに低下してきている中(※)、人口減少局面にある我が国が研究力の強化を図るために、研究者の研究生産性の向上を図ることが必要である。

(※)国・地域別論文数における日本の順位の推移(1998-2000年の平均→2018-2020年の平均)(いずれも分数カウント)

論文数:2位→5位、Top10%論文数:4位→12位、Top1%論文数:4位→10位(出典:科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2022」)

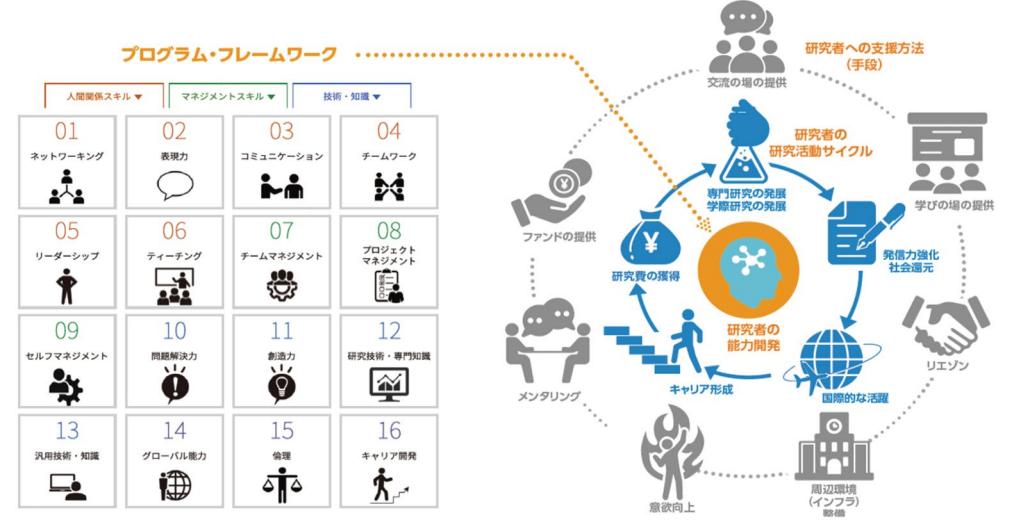
本事業の目的

我が国の研究開発力や国際プレゼンスを強化するために、産学の域を超えて世界で活躍できる研究人材の輩出を図り、研究者の更なる研究力向上に資する育成プログラムの開発や組織的な研究者育成システムの構築を行うこと。

研究者育成プログラムパッケージのイメージ

Researcher+が構築する研究者育成プログラムパッケージは、パッケージを構成する各種コンテンツの特徴を次の3つの軸で整理することにより、閲覧しやすくなるよう工夫しています。

「プログラム・フレームワーク」:世界で活躍できる研究者に求められる16の能力指標
 「研究者の活動サイクル」:研究者が研究活動を進めるステップ
 「研究者への支援方法」:研究者を支援する方法や手段



インプット (資源)

R5年度予算額
344,030千円
採択件数 5件

アクティビティ(活動内容)

○世界で活躍できる研究者育成に向けたプログラムを開発し、研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築することで、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。

○また、各機関の知見を集約・分析し、我が国の研究者育成プログラムの標準モデルや共通メニューの開発を行い、質保証されたプログラムの普及・拡大に繋げる。

アウトプット (活動目標)

研究者の研究力向上に資する研究者育成プログラムの開発やシステムの構築を進める。

【指標】
 ・育成プログラムのコンテンツ数が毎年増加する。

初期アウトカム (成果目標)

実施機関における研究者育成プログラムの利活用の拡大。

【指標】
 ・本事業において開発された研究者育成プログラムの受講者数が毎年増加する。

中期アウトカム (成果目標)

実施機関・連携機関も含め、本事業において開発された研究者育成プログラムを利活用する大学・研究機関が全国に拡大する。

【指標】
 ・本事業において開発された研究者育成プログラムを利活用する大学・研究機関が毎年増加する。

長期アウトカム (成果目標)

研究者育成プログラムを通じて多様な場で活躍するための資質能力を備えた生産性の高い研究者が世界で活躍する。

【指標】
 ・本事業において開発された研究者育成プログラムを利活用する大学・研究機関において海外との共同研究件数が毎年増加する。

世界で活躍できる研究者戦略育成事業 における取組事例

世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム L-INSIGHT

L-INSIGHT は、「世界視力」を時間、地理、学問分野、セクター等の境域を超えて見渡し、見抜き、見通し力と定義し、マインドセットとスキルセットの醸成・強化に取組みます。若手研究者や有識者等との対話を通じた事業構築と体系化に努め、次世代トップ研究者を育成するプログラムの開発と普及を目指します。



育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

「世界視力」を備えた 次世代トップ研究者の育成

碁盤の目として知られる京都の大路と小路の交わりのように、育成対象とする L-INSIGHT フェローの優れた独創性、高い専門性を縦軸とし、国際性、学際性、産業の視点といった多数の横軸を交わらせる実践的な機会と思考の時間を提供します。これにより、国際的に最先端の研究を牽引できる人財、境界域や新領域研究を開拓できる人財、産業界に新機軸をもたらし得るイノベーティブな人財等、厚みのある研究人財を育成します。フェロー自身が若手研究者コミュニティの発展に寄与すべく、目的に応じて、国内外の研究機関・企業研究者と協働で種々のプログラムを実施、展開します。こうした多様な研究者との議論やメンターとの対話を通じて研鑽を深め、「世界視力」の獲得を目指します。

京都の碁盤の目の大路と小路が交わるよう



縦軸 X 横軸

縦軸：
優れた独創性、高度な専門性
がある若手研究者

横軸：
実践プログラム群
学際性、国際性、産業等
次世代の視点と経験を活用

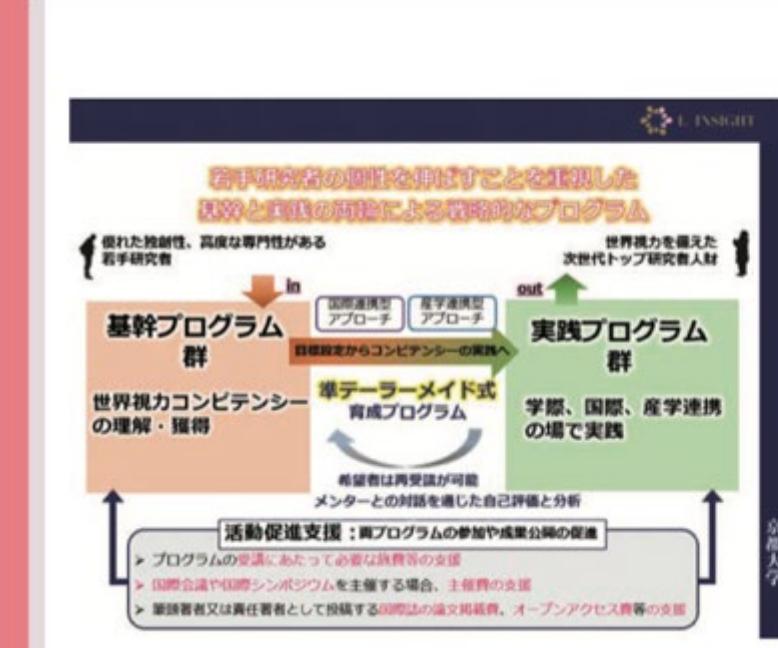
多様性を活かし続ける
世界視力を備えた次世代
トップ研究者へ

KYOTO UNIVERSITY

京都大学

開発する育成プログラムの構想

基幹と実践の両輪による 戦略的なプログラム



L-INSIGHTでは、次世代トップ研究者の競争力・優位性の源泉となり得るマインドセットとスキルセットとして、「世界視力コンピテンシー」の醸成・強化に取組みます。基幹プログラム群を通じてコンピテンシーの理解・獲得に努め、実践プログラム群により、獲得したコンピテンシーを学際・国際・産学連携といった多様な場で実践することができます。すべてのプログラムを受講する必要はなく、フェローのニーズに応じて選択できる「準テラーメイド型」を原則とし、加えて、フェロー自らや所属研究室のアイデアを柔軟に取入れる仕組みを採用します。さらに活動促進支援として、学外でのプログラム受講に必要な旅費等、及びフェローの研究成果公開のための費用を支援していきます。2

地方協奏による世界トップクラスの研究者育成 HIRAKU-Global

中国四国地方の若手研究者が、国際的なコミュニティの中で確かなプレゼンスと影響力を有し、インパクトを与える研究者となるよう、能力開発やネットワーク形成の機会の提供と、ビジビリティ向上のための支援を行います。それにより、地域全体の研究力のさらなる向上に貢献します。



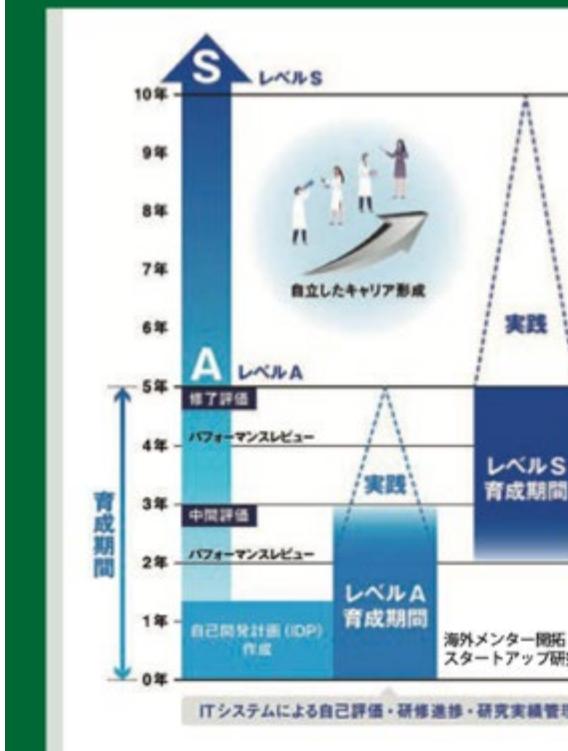
育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

多様性に富み、サステナブルな研究人材育成

HIRAKU-Global で育成する世界でトップクラスの研究者像は、自分の研究室を運営し、学生を育てつつ、さまざまな分野の国内外の研究者と連携し、独自の研究感性を磨き、世界でもユニークな研究を牽引していく研究人材です。

- 育成対象の若手研究者同士がネットワークを形成し、多様な学際領域に触れ、切磋琢磨し、共に高めあうプラットフォームを形成します。
- D生が、RAとして、あるいは、リサーチフェローとして、最先端の研究と国際的な活動を経験する場もあります。さらに次の世代が育っていきます。
- 各機関の研究設備・機器を相互に利用できるような枠組を構築し、共用を促進します。

国際的なプレゼンスと影響力のある研究者、すなわち、3I (Innovative, Influential, Impactful) 研究者を目指した育成プログラムの開発を行います。



開発する育成プログラムの構想

育成プログラムと 研究／研究者評価指標の連動

次の二つの観点から育成プログラムを構築します。

- ◆ **Visionary Empowerment**
世界的な視野でのビジョン構築
国際的なネットワークの形成
中長期的なキャリア形成

- ◆ **Professional Empowerment**
分野やニーズに応じた能力開発
他者への研究指導力やメンタリング能力
研究成果の発表と外部資金獲得

育成は、個別のニーズに合わせ、研修や交流等と国際共同研究の実践を効果的に組み合わせて進めます。

育成プログラムの構築と連動させて、研究及び研究者の評価指標を構築します。既に世界で活躍している研究者の過去のデータも活用することにより、指標の検証と改善を進めます。このようにしてプログラムの実証と効果の検証を進め、組織的な、世界レベルの研究者の育成システムにしていきます。

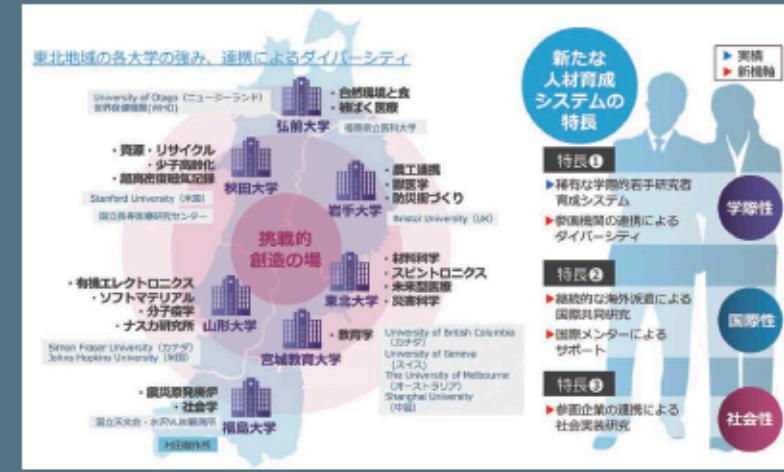
学際融合グローバル研究者育成東北イニシアチブ TI-FRIS

「学際性」、「国際性」、「社会性」を兼ね備えた世界トップクラスの研究者を育成するために、東北地域の7国立大学がコンソーシアムを形成して、国内外の連携機関の協力を得ながら、各機関・組織の強みを活かした異分野交流を核とする多様で柔軟な研究者育成プログラムを構築します。



育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念 東北から世界へ羽ばたく 人材の育成

TI-FRISの描像する世界で活躍できる研究者は、それぞれの専門分野で世界を先導しつつ、異分野の研究者と学際研究を展開できる力（学際性）、世界の研究者と切磋琢磨して研究を推進する力（国際性）、および社会と連携して研究成果を社会実装できる力（社会性）を兼ね備えた人物です。TI-FRISでは、これらの能力を修得するための各プログラムを有機的に実施できるシステムの構築を目指して、東北地域の大学と企業との強固な連携体制を基盤とし、地域と専門分野の垣根を越えたシナジー効果により、学術的インパクトと社会的インパクトを併せ持った研究成果を世界に発信できる研究者を育成します。



特長①：学際性

学際研究者交流プログラム（5年間）

専門分野と機動の垣根を越えて新しい、研究成果について発表・討論を行って学際融合研究に挑戦させる研究交流になり、両分野の研究者と学際研究を発展させる力（学際性）を強化する。

- 学際融合研究交流会（毎月）
- 学際融合研究者育成合宿（年1回）
- 学際融合研究支援

特長②：国際性

国際共同研究プログラム（5年間）

育成対象者が海外研究機関に在籍して、世界のトップレベル研究者と継続的な国際共同研究を実施し、世界の研究者と切磋琢磨して研究を推進する力（国際性）を強化する。

- スタートアップ支援
- 国際共同研究支援
- 研究実装委託支援
- セミナー開催支援

特長③：社会性

研究社会実装プログラム（5年間）

育成対象者が参画企業等と連携して、世界のトップレベル研究者と継続的な国際共同研究を実施し、世界の研究者と切磋琢磨して研究を推進する力（社会性）を強化する。

- 産学共同研究サポート
- 社会実装サポート
- 産学共同研究・社会実装支援

トランスファラブルスキル修得プログラム

トランスファラブルスキルとは、対課題スキル、自己管理スキル、対人スキルなど、單體や業務内容等を超えて応用可能な能力のことであり、本事業では、世界トップクラス研究者に不可欠なスキルを強化する。

- 学際研究講座
- トップ研究者講座
- 学際インパクト講座
- 社会インパクト講座
- 産業界R&D・社会実装講座

共通プログラム（5年間）

参画機関の選択の下、育成対象者が独立した研究環境で研究を実施する基盤となる研究設備を整備するとともに、育成対象者の研究成果、育成対象者と参画機関及び連携機関の研究者間の交流、事業の情報発信の場を設ける。

- 研究設備共用ネットワーク
- 国際シンポジウム（3月）

開発する育成プログラムの構想

連携による大きなダイバーシティ をもつ挑戦的創造の場

TI-FRISでは、学際融合研究をベースとした研究者育成に取り組んできた東北大学を代表機関として、それぞれ独自の強みを有する東北地域の弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学が、コンソーシアムを形成し、それぞれの強みや独自の特徴的な取り組みを活かしたプログラムを展開します。国内外の連携研究機関や連携企業の協力を得ながら、学際研究者交流、国際共同研究、研究社会実装のプログラム群と、ベースとなるトランスファラブルスキル修得プログラムを提供します。これらにより、研究者の内発的な成長に向けて柔軟に対応・支援し、ダイバーシティを重視した挑戦的創造の場を構築します。

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業 T-GEx

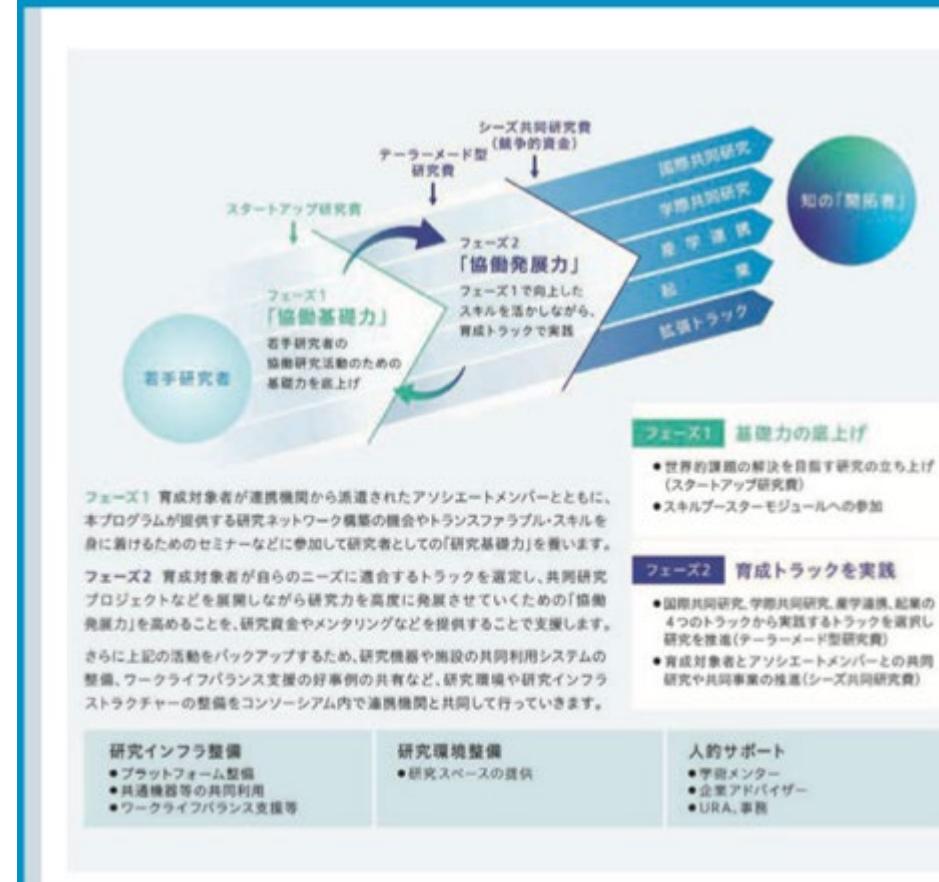
T-GEx では、若手研究者が大型の国際的・学際的研究プロジェクトを牽引する PI や、産学連携や起業を国内外で活発に展開する高度人材など、自らが定める方向で成長していくことを支援し、これにより、次世代に対する「ロールモデル」を輩出して、東海圏内外に人材育成の好循環を作り出していくことを目指します。



育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

世界的課題を解決する知の「開拓者」の育成

T-GExが育成目標とする研究者像は、「国」「業種」「分野」「文化」の壁を打ち破り、異なる領域の知と経験を縦横につなぎながら新たな課題に常に挑戦し、チームを牽引して世界的課題の解決を実現する高度な知の「開拓者」です。国際的学術潮流をリードする国際・学際共同研究を展開したり、あるいは産学連携や起業を通じて社会のニーズに応えることで、イノベーション効果を広く産業や社会へと波及していくことが知の「開拓者」には期待されます。こうした知の「開拓者」による研究・社会実践活動は次世代の若手研究者たちを触発し、東海圏内外に高度人材育成の好循環が作り出されることにつながると予想されます。



開発する育成プログラムの構想

5つのトラックを通じた スキル構築と共同研究の実践

名古屋大学を代表機関とし、岐阜大学を共同実施機関とするT-GExプログラムの主眼は、若手研究者が大型の国際的・学際的研究プロジェクトを牽引するPIや、産学連携や起業を国内外で活発に展開する高度人材など、自らが定める方向(トラック)で成長していくことを支援し、これにより、次世代に対する「ロールモデル」を輩出して、人材育成の好循環を作り出していくことです。このため、本プログラムでは東海圏内外の連携学術機関・企業とコンソーシアムを構築して、トランスファラブル・スキルの習得やネットワーク構築のための機会を提供し、データーメード型研究費の支給を通じて連携機関の若手研究者を巻き込んだ共同研究を促進していきます。また、男女共同参画・ダイバーシティの推進やデジタル化の加速のために、コンソーシアム内での研究環境整備にも取り組んでいきます。

大学×国研×企業連携によるトップランナー育成プログラム TRiSTAR

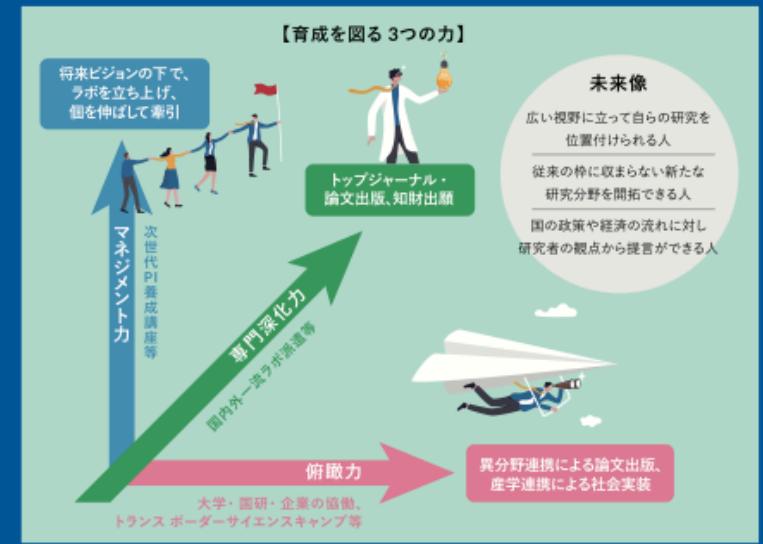
TRiSTARは、自身の専門性の追求の先に、分野や業種の壁を超えた新たな可能性を見出すことができる「トランスポーダー型研究者」の育成を図ります。従来の人材育成の枠を超え、大学、国研、企業、三者それぞれの強みを活かした協働とキャリアパスを創出する新時代の育成モデルを目指します。



育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

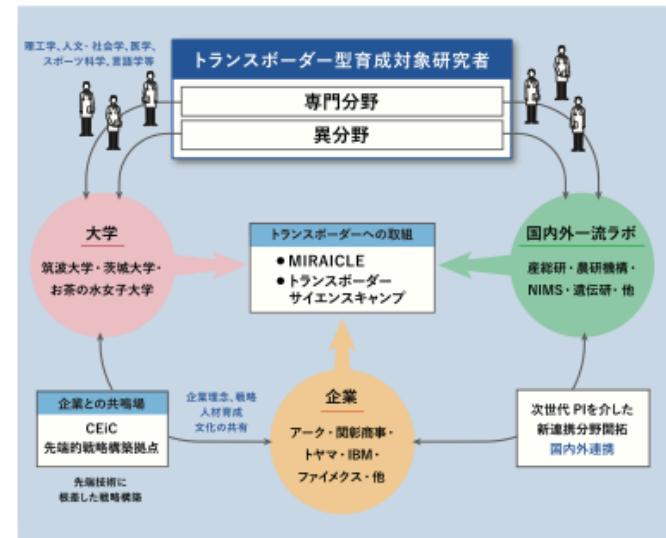
壁を超えた可能性に挑む トランスポーダー型研究者

TRiSTARが目指す研究者像は、自身の専門性の追求の先に、分野や業種の壁を超えた新たな展開可能性を見出すことができる「トランスポーダー型研究者」です。TRiSTARでは、①オリジナルで先端性をもつ研究を長期的なビジョンを見据えて深化させていく「専門深化力」、②専門分野が持つポテンシャルから異分野融合や産学連携など他分野/他業種との共創を導き出す「俯瞰力」、③将来ビジョンの下で研究グループを立ち上げ、個を伸ばして牽引していく「マネジメント力」を醸成し、次世代に活躍するトランスポーダー型研究者を育成し、大学、国研、企業との協働とキャリアパスの循環を図ります。



開発する育成プログラムの構想

大学×国研×企業のシナジーによる人材育成



TRiSTARの育成プログラムでは、国内トップクラスの研究環境を有する筑波研究学園都市の強みを最大限に活かし、大学×国研(*)×企業との協働の下、世界を先導する「トランスポーダー型研究者」育成プログラムの開発と実証を行います。育成対象者を大学、国研、企業から選出し、研究者、派遣機関、受入機関の三者間でマッチングを図りながら、トランスポーダーな活動に対する組織的な支援、企業との先端技術や人材育成文化の共鳴場(CEIC)の活用等により、他分野/他業種との共創の可能性を引き出していくことを目指します。このプログラム推進のため、コンソーシアムを組成すると共に「トランスポーダー・テニュアトラック推進」「次世代PI養成講座」「研究環境整備」のワーキンググループを設置し、異分野融合や産学連携、世界トップの研究者ネットワークへの参入、ダイバーシティ&インクルージョン、知的財産の保護・資源化など、育成対象者の研究力強化を行っていきます。 6

学際融合研究交流会「TI-FRIS/FRIS Hub Meeting」

28

概要

- 幅広い分野の若手研究者が大学・分野の垣根を越えて交流する研究発表セミナー
- 若手研究者が学際融合研究の重要性を理解し、活用できる研究者に成長するのをサポートする機会として開催
- 東北大學で月1回、FRIS Hub Meetingと合同で開催
- TI-FRISフェローによる発表（これまでに11件）

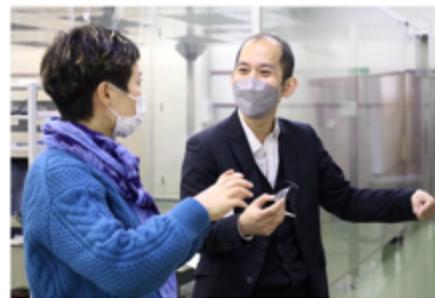


趣旨（背景・目的）

- TI-FRIS : 学際性、国際性、社会性
- 幅広い分野の若手研究者が大学・分野の垣根を越えて交流
- 若手研究者が学際融合研究の重要性を理解し、活用できる研究者に成長するのをサポート
- 「自分の分野の何が面白いのか」「自分の分野の研究方法とは」「自分の分野内だけで解けそうにない問題の紹介」などに重点

効果

- 発表者、聴講者双方にとってトレーニングと気づきの場
- TI-FRISフェロー間の自主的な交流の活性化
 - ✓ これまでに9件の実地交流
- 学際共同研究のきっかけ
- TI-FRISフェローの高い参加率（～8割）
- TI-FRISフェローと記者（社会）との接点
 - ✓ 各回数名の科学記者の参加
 - ✓ 科学記者からの要望により後日に記者向け説明会を開催（令和3年10月開催、記者5名参加、TI-FRISフェロー発表）
- 学生の参加（参加者のうち～2割）





学際融合研究支援

37

概要

- フェロー間交流から高インパクトな学際融合研究への発展を促進
- 分野を越えた優れた共同研究の提案を公募し、研究費を支援：1件あたり上限50万円/年、2年間
- TI-FRISフェローを代表者とし、代表者の他にTI-FRISフェローまたはTI-FRISシニアフェローを含む分野を横断した研究者で構成される研究グループが対象

支援実績（令和4年度より実施）

- 令和4年度：3件
- 令和5年度：1件



国際共同研究支援

43

概要

- 世界のトップレベル研究者との継続的な国際共同研究を促進
- TI-FRISフェローが海外の研究機関（原則として国際メンターの研究室）に1か月程度滞在して研究を行うために必要な旅費や研究費等を支援：上限100万円/年、5年間
- 各フェローの研究計画や渡航予定に応じた柔軟な活用が可能
- 国際メンターには、TI-FRISフェローとの共同研究を通じたアドバイスやサポートを依頼

支援による渡航実績

- 令和2年度： 0件
- 令和3年度： 2件
- 令和4年度：16件

3-2. プログラム開発における好事例の詳細

④ 名誉教授メンター制度

再掲

【狙い①】

日常的に得られないダイバーシティ(産学・ジェンダー・文化圏・多世代)環境

名誉教授メンター制度

累計 67回の実施 | 3/20 時点



【活動趣旨】

- 名誉教授が所属や分野を超えた中立的な立場でフェローと対話
- 目標の実現に向けた長期的取り組みに対する自己評価することを支援する機会

【特徴】

- 間柄に応じた形式で回数や時間を縛ることなく、フェローに有益なトピックで対話
- メンターへの謝金制度はあるが、事務室を通さないお付き合いへと進行

【得られる効果】

- 構想の実行開始のトリガーとなっている
- 定量的評価の困難な新領域における、研究価値の確認機会
- コロナ禍で価値が見失われつつあった「実利的でない機会」の重要性を再認識

「これがあるからフェローである意義があるというほどのインパクトがある」

本プログラムで駆動されるコンピテンシーの紐付け (2020年度～2022年11月 時点)

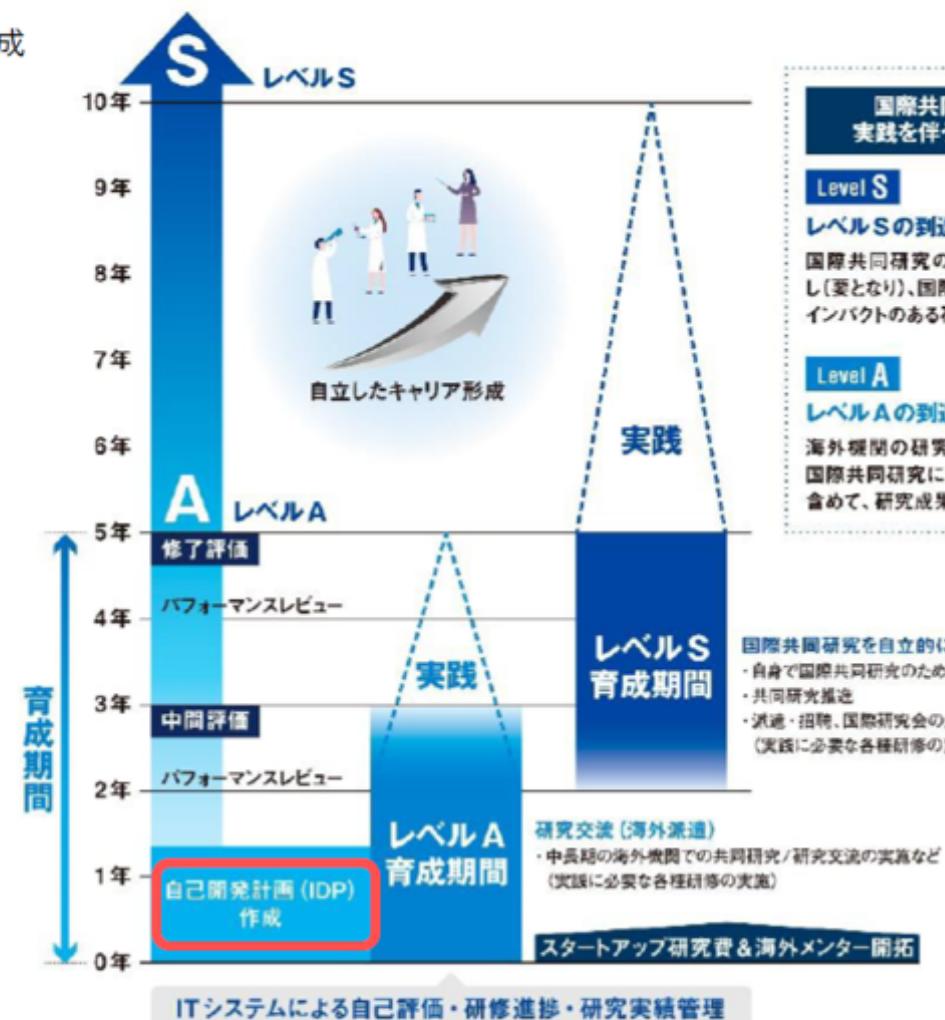
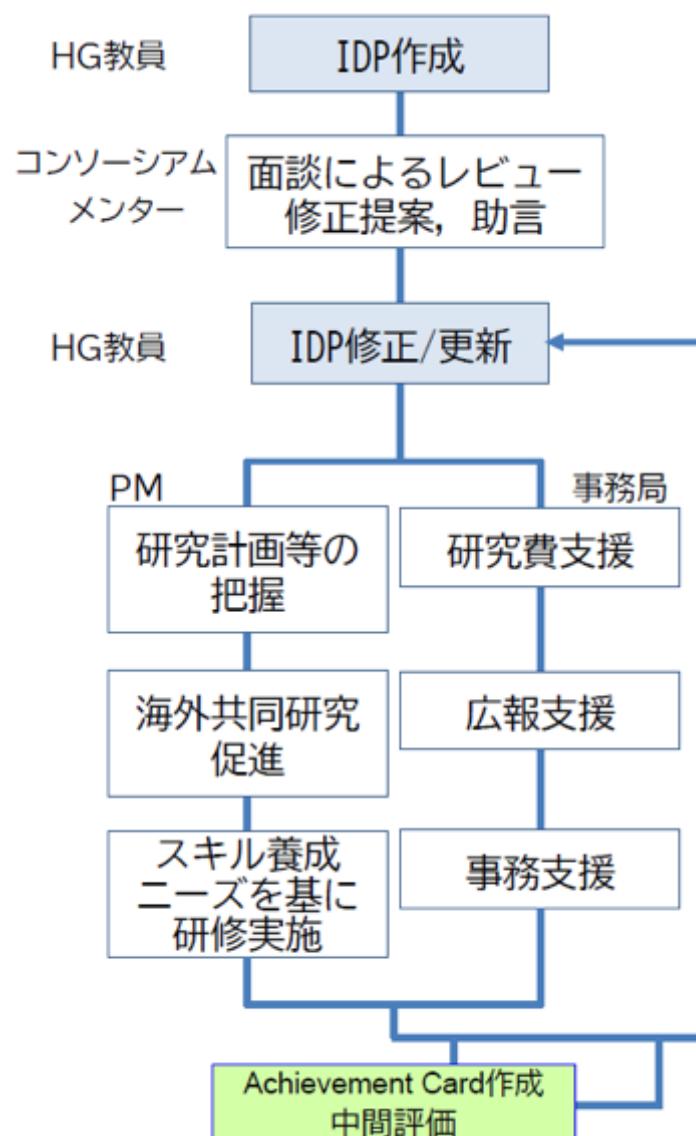
- フレームワーク(1～9)を幅広くカバーしており、フェローそれぞれに応じた効果的な活用がなされている

【汎用への展望】

- 退官後に他機関で活躍するメンター候補が多く人財不足の傾向
- 学内の海外出身教員などとの相互メンタリングにより、人数に制限を設けず汎用が可能になる

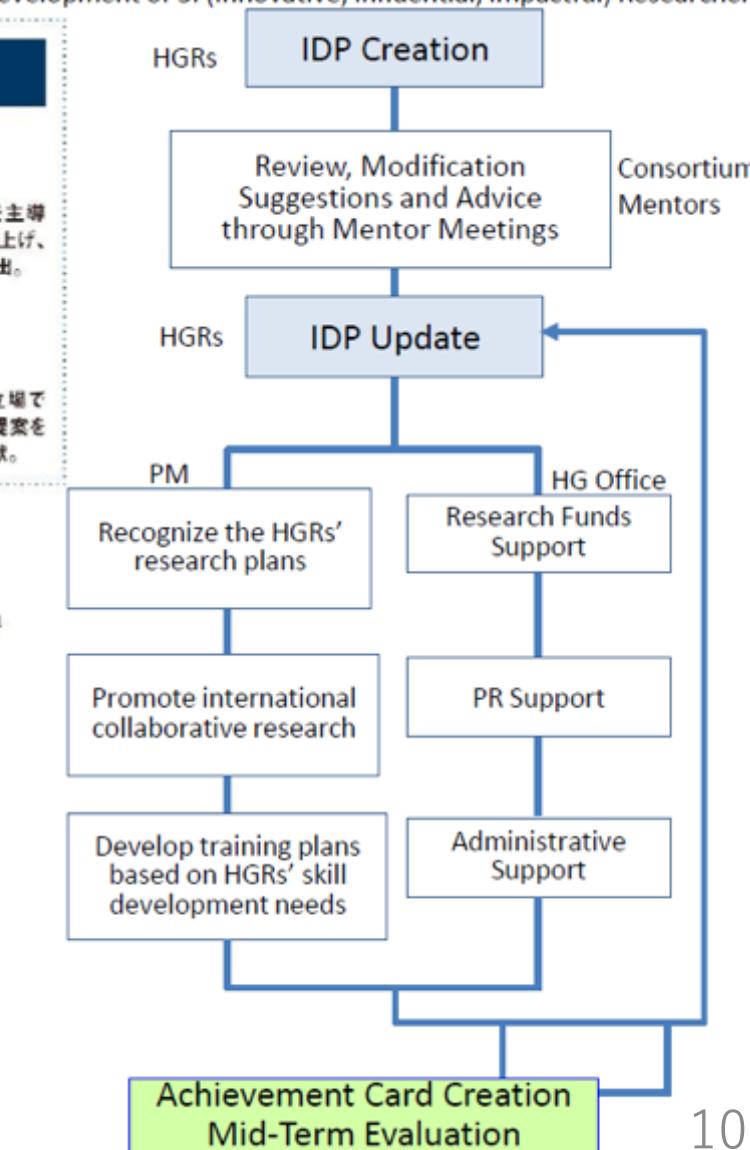
IDPを基本とする育成フロー

3I (Innovative, Influential, Impactful) Researchers 育成



IDP-based Development Flow

Development of 3I (Innovative, Influential, Impactful) Researchers



博士後期課程学生支援への活用（広島大学の事例）

○若手研究者ポートフォリオ「HIRAKU-PF」

- ◆ 博士課程学生やポストドクター等若手研究者が、自身の能力の強みや弱みを理解し、目標設定や成長履歴を自己管理するためのツールを提供することで、若手研究者自身が目指す多様なキャリアの実現をサポート。
- ◆ 若手研究者が自身の研究活動などをアピールする場や、異なる分野の若手研究者同士あるいは民間企業等の異なるセクターとの交わりの場を提供。



○世界で活躍できる研究者戦略育成事業の成果の活用

- ◆ 世界で活躍できる研究者戦略育成事業においてHIRAKU-PFの改修を実施するとともに、育成対象者のシステム利用を通じて HIRAKU-PFの有用性を実証
(改修事項の例) eポートフォリオ機能（自己PR等のため研究業績等に関する情報を一覧化する機能）にresearchmapとのデータ連携機能を導入
- ◆ 博士後期課程学生全員のHIRAKU-PFへの登録を基本とするとともに、広島大学において実施する他の事業においても、支援対象者の HIRAKU-PFの活用を促進

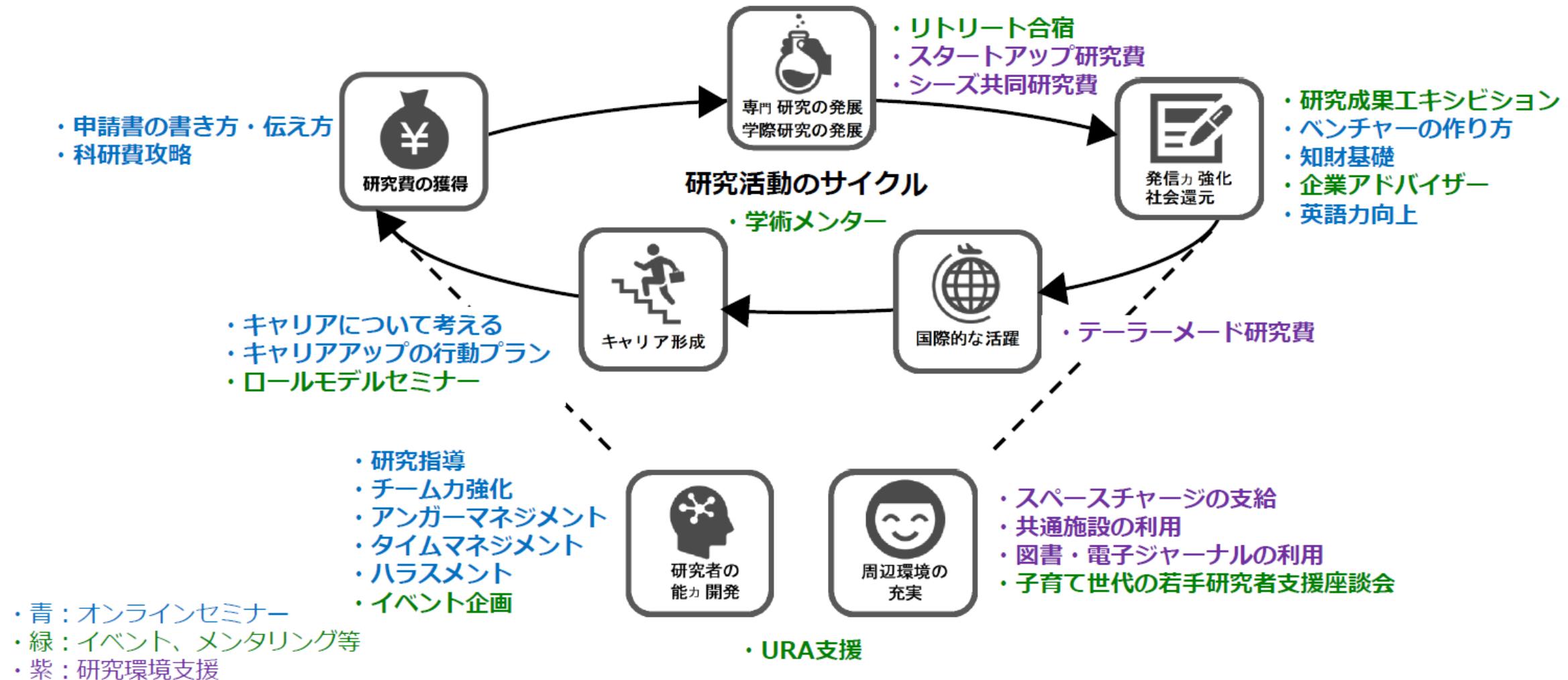
(活用事例) 次世代研究者挑戦的研究プログラム ※優秀で志のある博士学生(全国約6,000人)に対し経済的支援及びキャリアパス整備を行う事業

広島大学における次世代研究者挑戦的研究プログラムの中での関連取組

HIRAKU-PFの活用を図ることで、学生自身の自主的な能力開発を促し、学生同士や企業等との「つながる」「まじわる」「あつまる」を実現。具体的には、支援対象学生に対しHIRAKU-PFの利用方法を動画で説明すること等により、HIRAKU-PFの活用を促進。

T-GExにおける若手研究者育成の全体像 R4年度

R4年度は、様々なスキルブースターモジュールのオンラインセミナー（青）やイベント等（緑）、さらに研究費や研究環境の支援（紫）を設定し、体系的な支援体系の構築を進めた。



e-ポートフォリオの立ち上げ

e-ポートフォリオでは、以下の3つについてT-GExフェローが自己分析を行い、次の目標設定に役立てる。

- ① 研究活動（論文、学会発表、学会運営、受賞、教育など）を通じて、どの知の「開拓者」コンピテンシーが向上したか？
- ② どの知の「開拓者」コンピテンシーの向上に向けて、スキルブースターモジュールに参加したか？
- ③ 学術メンター・企業アドバイザーとの面談の記録



子育て世代の若手研究者支援



女性支援から子育て世代支援への進展

女性研究者（20%）男性研究者（50%）のライフイベントとキャリアの実現のための支援
既身研究者（30%）の参加を促し相互理解を深める

産休・育休、子育てに関係する問題提起

- (1) 任期付き雇用のタイプによって産休・育休の取りやすさに違いがある。
(産休・育休取得期間分の雇用期間の延長の有無)
- (2) 産休・育休期間は科研費が使用不能stopしてしまう。
- (3) 有給休暇が少ないため、子供が小さい時の病気対応での休暇が取得しにくい。
- (4) 夫婦それぞれのキャリア実現のための別居によるワンオペ負担がある。

T-GExフェローの子育てに対する考え方やアプローチは多様。
印象：自分にとってベストな研究への取り組み方は何か？を考えることは大事。
それぞれに対応した多様な支援があると良い。

業績・評価に関係する問題提起

- (1) 業績を出し続けられる支援
・実験補助員の雇用支援（T-GExでもRAの雇用は支援有り）
・分析の外部委託支援
- (2) 産休・育休取得者の業績評価システムの見直し
・例えば、子供一人につき2年間の業績数の割合など
・多様なライフスタイルを踏まえた評価

印象：共働きや少子化が進む世の中から遅れをとっているのでは？

トランスポーダーを支援する育成プログラム



1. 異分野・異業種との交流・ネットワークの構築

- 1 研究者間の交流・情報交換の場
- 2 国研や企業等参画機関、外部機関との交流会（異分野・異業種交流）
- 3 トランスポーダーサイエンスキャンプ（合宿形式）
- 4 ダイバーシティ関連講座（お茶の水女子大主催）

2. 共同研究の推進

- 1 他業種、他機関との共同研究、連携の推進（マッチング支援）
- 2 海外の類似PJやトランスポーダー研究者との交流と連携研究の推進
- 3 アントレプレナー講義（産学連携）
- 4 メンターによる研究者として成長へのサポート
- 5 研究紹介動画の作成

3. 研究専門深化と論文投稿の推進

- 1 筑波大学電子ジャーナルへのアクセス権提供（学外所属者向け）
- 2 論文への投稿の推進とオープンアクセス体制の構築
- 3 専門性の高い論文執筆ワークショップ（Nature Masterclasses）

4. 知財戦略に対する知識と意識の向上

- 1 知財講義（①基礎編・実践編 ②起業編）（アーカイブの活用（随时受講可））
- 2 発明相談会（個別）
- 3 出願相談窓口（随时開設）

5. コミュニケーションスキル、マネジメントスキルの習得

- 1 効果的な自己アピール法の習得（プレゼンテーション力・資料の作成スキル等）
- 2 科学英語プレゼンテーション研修（遺伝研メソッド）
- 3 研究マネジメントスキルの習得（IRIS Research Management Seminars）

6. 研究時間の安定確保（業務の効率化）

- 1 研究環境の改善・業務の効率化（課題抽出と解決策について）（グループ討議）
- 2 研究と運営業務のマネジメントスキル講座（茨城大主催）

取組事例

JSTサイトビジットタイアップイベント

異分野クロスオーバー

生み出された新分野

	融合した研究分野	生み出された新分野	新分野の問い合わせ?
Group1	・ 睡眠科学 ・ VR ・ 材料科学 ・ 応用数学	実証数学	現象を説明できる数理モデルを作成できるか?
Group2	・ 美学 ・ 社会シミュレーション・VR ・ 政治学 ・ 社会工学	バイアス学	バーチャル空間でどのようにバイアスを可視化できるか?
Group3	・ 不凍タンパク質研究 ・ ケージドドラッグ研究 ・ 半導体検出器技術	凍結生物学	生物は生命を越えられるか?
Group4	・ スポーツ神経科学 ・ 睡眠医科学 ・ 睡眠生物学 ・ スポーツの脳科学	夢生物学 Dream Biology	ハイパフォーマンスと健康の両立に向けた夢の利用法とは?



URAによる伴走支援について



URAによる個別ヒアリングを介した伴走支援

■第1期, 第2期TRiSTARフェロー専門分野と担当URA

番号	期	氏名	所属	専門分野	主担当URA	副担当URA
1	1	阿部 高志	筑波大学	睡眠科学, 実験心理学	竹下	佐々木(筑波大)
2	1	板橋 悠	筑波大学	考古学, 先史学, 自然人類学	佐々木(筑波大)	竹下
3	1	奥村 宏典	筑波大学	ワイドギャップ半導体の結晶成長と電子・光デバイスの作製	佐々木(筑波大)	大垣
4	1	川北 哲史	農研機構	農業情報学・農業気象学・農業環境工学	竹下	佐々木(筑波大)
5	1	木下 奈都子	筑波大学	植物生理学	橋本	竹下
6	1	倉持 昌弘	茨城大学	生物物理, 放射光, 神経科学, 分子生物, 材料計測	佐々木(茨城大)	橋本
7	1	高安 亮紀	筑波大学	数値解析, 精度保証付き数値計算, 無限次元力学系	佐々木(筑波大)	鳥羽
8	1	平木 剛史	筑波大学	拡張現実感, 触覚インタフェース, ソフトロボティクス	佐々木(筑波大)	竹下
9	1	藤山 知之	筑波大学	神経発生生物学, 睡眠医科学	竹下	鳥羽
10	1	前田 知貴	茨城大学	材料科学, ポリマー材料, 中性子科学	佐々木(茨城大)	佐々木(筑波大)
11	1	松井 崇	筑波大学	運動生化学, スポーツ脳科学, eスポーツ科学	竹下	大垣
12	2	秋山 肇	筑波大学	憲法・平和研究・国際機構論	竹下	鳥羽
13	2	長 真啓	茨城大学	機械力学・制御, 医用メカトロニクス, 生体医工学	佐々木(茨大)	橋本
14	2	武安 光太郎	筑波大学	表面科学, 触媒化学, 物理化学	橋本	佐々木(筑波大)
15	2	朴 寅成	筑波大学	エネルギー代謝・睡眠・運動栄養学	竹下	佐々木(筑波大)
16	2	毛内 拡	お茶の水女子大学	神経生理学, 生物物理学	森(お茶大)	橋本
17	2	山中 利晃	筑波大学	コーポレートガバナンス	橋本	大垣

R4年度 個別ヒアリング項目

i) TRiSTARプログラムの活用について

- ・ フェローとしての将来の目標
- ・ フェローとして目標とする研究者とその理由
- ・ 大学, 国研, 企業の3者の異分野融合や産学連携にあたり, どのような力を伸ばしたいか
- ・ ご自身の研究展開に生かせるプログラムとはどのようなものか など
- ・ ご自身の研究環境に対する支援の要望 など
- ・ メンター制度の活用について
- ・ PV作成の希望の有無

ii) 研究費執行について

- ・ 予算執行計画について
- ・ 申請された研究費の支援以外に事務局からの支援の可能性について (R4年度および将来的な可能性)

世界で活躍できる研究者戦略育成事業

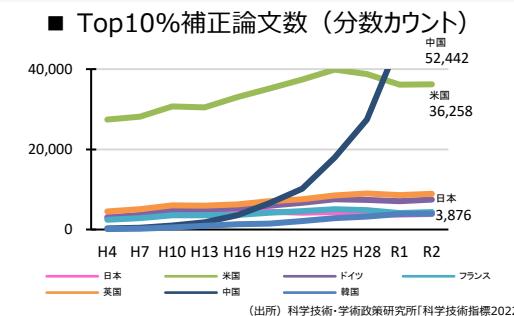
令和5年度予算額
(前年度予算額)

344百万円
344百万円)



背景・課題

- 論文数に関する我が国の国際的地位が質的・量的に低下してきている中、人口減少局面にある我が国が研究力の強化を図るために、研究者の研究生産性の向上を図ることが急務。
- そのため、海外の取組を参考に、世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発するとともに、研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築し、研究成果が世界で評価され、海外からも研究資金を得られるような、世界水準の研究・マネジメント能力を身に付けた世界で活躍できる研究者の戦略的育成を推進。



事業概要

【事業の目的・目標】

- 我が国の研究生産性の向上を図るため、国内の研究者育成の優良事例に海外の先進事例の知見を取り入れ、世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、世界のトップジャーナルへの論文掲載や海外の研究費獲得等に向けた支援体制など、研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。
- また、より効果的なプログラムを効率的に開発するため、各機関の代表者や学識経験者等で構成する「研究者育成プログラム開発普及委員会」を設け、各機関の知見の集約・分析や海外の先進事例等に関する情報の収集・分析を行い、我が国の研究者育成プログラムの標準モデルや共通メニューの開発を行い、各機関にフィードバックしてプログラムの不断の改善を図るとともに、学会や大学団体等とも連携し、開発されたプログラムの普及に向けた方策の検討を行う。

【事業スキーム】



- ✓ 支援対象：国公私立大学、研究開発法人
(複数機関によるコンソーシアム形式)
- ✓ 支援機関：5機関（継続分のみ）
- ✓ 事業規模：70百万円程度／機関・年（10年間）

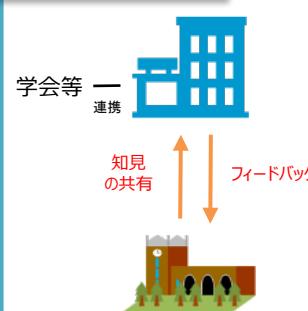
【支援の条件】

- Society5.0における変化も見据え、文理の壁を越えて研究者の成長と科学技術イノベーションの創出を促す多様なバックグラウンドを有する研究者が相互研鑽を積む環境形成

海外研究機関で研究経験がある帰国研究者、外国人研究者、異分野・異機関の研究者が切磋琢磨する環境
*参加条件を定めて他機関の研究者も受入れ
- 人事給与マネジメント改革など若手研究者の確保に向けた自発的取組を行っていること

【選定実績】 京都大学（R 1）、広島大学（R 1）、東北大学（R 2）、筑波大学（R 3）、名古屋大学（R 3）

イメージ



＜研究者育成プログラムのイメージ例＞

教育プログラム	□ 海外研鑽機会の提供（海外研究機関での研究活動等） □ 异分野交流機会の提供（异分野研究者との合同会合等） □ トランスペラブルスキルの育成（研究・マネジメント能力等）
研究指導	□ メンターによる指導
研究環境改善	□ エフォート管理（研究時間の確保） □ 研究施設・研究機器の共同利用

- 各機関においてプログラムのメニューや実施方法、育成環境、実施体制等について実証。

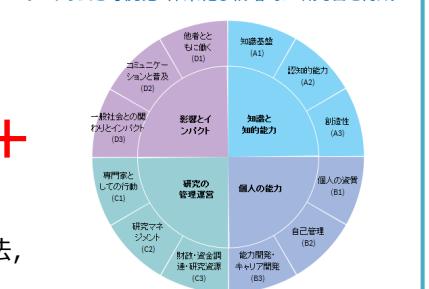
■ 研究者育成プログラム開発普及委員会 (JST)

- 各機関の知見等を集約・分析し、各機関にフィードバック
- 学会・大学団体等と連携し、プログラムの普及方策の検討

・会議開催・事務局経費
・情報収集・分析経費

■ 英国 VitaeのResearchers Development Framework (RDF)

世界トップクラスの研究者育成に向けた
プログラムを可視化・体系化し戦略的に研究者を育成



2. 科学技術・イノベーション人材の育成・確保

令和5年度予算額
(前年度予算額)

267億円
262億円)

※運営費交付金中の推計額含む



- 我が国の科学技術・イノベーションを担う多様な人材の育成や活躍促進を図るため、博士後期課程学生を含む若手研究者への経済的支援の強化、キャリア構築支援・研究環境確保・能力開発等を一体的に推進
- また、次代の科学技術・イノベーションを担う人材の育成機会の拡大に向け、初等中等教育段階における先進的な理数系教育実施等への支援を強化
- 併せて、多様な視点や優れた発想を取り入れた科学技術・イノベーションの活性化に向け、女性研究者の活躍促進に向けた取組を充実

若手研究者等の育成・活躍促進

◆博士後期課程学生の待遇向上と研究環境確保（大学フェローシップ創設事業）

3,601百万円（3,368百万円）

優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援（生活費相当額、研究費）及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援。

※「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」を一体的に運用し、令和5年度は全体で約9,000人（令和4年度より約1,000人増）の博士後期課程学生の支援を実施

※あわせて、「創発的研究支援事業」により、研究者をリサーチ・アシスタント（RA）として支える博士課程学生等に対する支援を実施

◆特別研究員制度 **16,182百万円（16,134百万円）**

我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図るため、優れた若手研究者に研究奨励金を給付して研究に専念する機会を提供し、研究者としての能力を向上できるよう支援。

◆世界で活躍できる研究者戦略育成事業 **344百万円（344百万円）**

若手研究者に対し、産学官を通じて研究者として必要となる能力を育成するシステムを組織的に構築。

博士課程学生・ポスドク

若手研究者



女性研究者の活躍促進

◆ダイバーシティ研究環境実現

イニシアティブ

1,087百万円（1,037百万円）

研究と出産・育児等の両立や女性研究者のリーダーの育成を一体的に推進する大学等の取組を支援。令和5年度は「女性リーダー育成型」の支援規模を拡充。

◆特別研究員（RPD）事業【再掲】

930百万円（930百万円）

出産・育児による研究中断後に、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究奨励金を給付し、支援。（RPD: Restart Postdoctoral Fellowship）



次代の科学技術・イノベーションを担う人材の育成

◆スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業 **2,375百万円（2,276百万円）**

先進的な理数系教育を実施する高等学校等をSSHに指定。令和5年度から、指定校と域内の学校や大学、企業等との連携が円滑になるよう、コーディネーターの配置等を支援。



◆国際科学技術コンテスト **983百万円（680百万円）**

主に理数系の意欲・能力が高い中高生が相互に競い、研鑽する場を支援。令和5年度は数学および物理の国際科学オリンピックが日本で開催予定。



◆大学等による次世代の科学技術人材育成支援 **700百万円（680百万円）**

理数分野で卓越した才能を持つ小中高校の児童生徒を対象とした大学等の育成活動を支援。

※グローバルサイエンスキャンパスとジュニアドクター育成塾の合計額

初等中等教育段階

◆女子中高生の理系進路選択支援

プログラム

60百万円（42百万円）

女子中高生が適切に理系進路を選択することができるよう、地域で継続的に行われる取組を推進。



令和4年度行政事業レビューシート(文部科学省)

事業名	科学技術に関する人材の養成・活躍促進			担当部局	科学技術・学術政策局	作成責任者
事業開始年度	平成23年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	人材政策課	人材政策課長 橋爪淳
会計区分	一般会計					
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	成長戦略実行計画(令和3年6月18日閣議決定) 統合イノベーション戦略2021(令和3年6月閣議決定) 第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)	
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興	
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	若手研究者の安定かつ自立した研究環境の整備や女性研究者の活躍促進など、科学技術イノベーションを担う多様な人材の育成や活躍促進を図るための取組を推進する。					
事業概要(5行程度以内、別添可)	<p>【科学技術人材育成費補助金】 ○ 頂点研究員事業【定額補助】: 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。 ○ ダイバーシティ研究環境実現ニーシアタイプ【定額補助】: 女性研究者の活躍促進を図るため、出産・育児等のライフイベントにかかわらず研究を継続できる環境の整備や、女性研究者の上位職登用の推進に取り組む大学等を支援する。 ○ データ関連人材育成プログラム【定率補助】: 第四次産業革命を勝ち抜く上で求められるAI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材を育成するため、博士号取得者等にデータサイエンス等のスキルを習得させ、キャリア開発に取り組む機関を支援する。(補助率1/2) ○ 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築【定額補助】: 科学技術イノベーションの重要な担い手である若手研究者育成のため、複数の研究機関が連携し形成するコンソーシアムによるモデルとなるプログラムの開発を支援する。 ○ 世界で活躍できる研究者戦略育成事業【定額補助】: 国内外の先進事例の知見を取り入れ、世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発するとともに、研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学等を支援する。 ○ リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施【定額補助】: 質保証制度の実施に際し、URA等のマネジメント人材に必要とされる知識の体系的な専門研修受講の機会提供や、実務能力を踏まえた客観的な質保証(認定)を行うため、それらを行う質保証機関の運営を支援する。</p> <p>【科学技術人材養成等委託費】 ○ 理数学生育成プログラム(サイエンス・インカレ): 全国の中学校・高等学校の自然科学分野を学ぶ学部生等が自主研究を発表し切磋琢磨し合う場を構築する(令和3年度は「サイエンス・カンファレンス」として学生の交流の場を提供)。令和3年度終了。 ○ 科学技術イノベーション創出基盤に関する課題の調査分析: 科学技術人材育成費補助金の各事業において、各プロジェクトの公募・審査、採択されたプロジェクトの審査・評価等に係る業務を実施する。 ○ リサーチ・アドミニストレーターの認定制度の実施に向けた調査・検証: リサーチ・アドミニストレーター(URA)の認定制度により、URAに必要とされる実務能力について業務内容・レベル毎に客観的に質的保証を行いうため、質保証(認定)制度構築に向けた制度設計・試行に係る調査研究を実施する。 ○ 科学技術・イノベーション人材の育成・確保等に関する調査: 大学等における優れた研究者の育成等に関する諸外国における関連施策の立案状況について、調査・分析を行う。</p> <p>【事務費】 ○ 技術士法の施行: 技術士法に基づき、技術士第一次、第二次試験の実施運営、問題作成及び合格者等への各種証明書発行、資格保有者の登録と、そのためのデータ管理等を指定試験・登録機関への委託等により実施するものである。なお、技術士第二次試験合格者は、技術士登録簿への登録後、技術士登録証が付与される。</p>					
実施方法	委託・請負、補助					
予算額・執行額 (単位:百万円)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求	
	当初予算	4,524.8	3,677.4	3,248.1	2,510.3	2,522.4
	補正予算	▲0.4	▲0.5	▲0.3		
	前年度から繰越し	-	-	-		
	翌年度へ繰越し	-	-	-		
	予備費等	-	-	-		
	計	4,524.4	3,676.9	3,247.8	2,510.3	2,522.4
	執行額	3,645.7	2,904.5	2,730.8		
	執行率(%)	81%	79%	84%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	81%	79%	84%		
歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由			
科学技術人材育成費補助金	2,128.6	2,168.3	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。			
科学技術人材養成等委託費	313.4	318.7	※テニュアトラック普及・定着事業は令和2年度終了。			
非常勤職員手当	18.2	18.4	※理数学生育成プログラム(サイエンス・インカレ)は令和3年度終了。			
職員旅費	7.6	7.3				
委員等旅費	3.9	4				
その他	38.6	5.7				
計	2,510.3	2,522.4				

活動内容 (アクティビティ)		データ関連人材育成プログラムにて、第四次産業革命を勝ち抜く上で求められるAI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材を育成するため、博士号取得者等にデータサイエンス等のスキルを習得させ、キャリア開発に取り組む機関を支援する。									
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	データ関連人材育成プログラムのプログラム修了者数が当初見込みの9割を上回る。		データ関連人材育成プログラムのプログラム修了者数	活動実績	人	172	232	178	-	-	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込			
	データ関連人材育成プログラム全体の執行額/プログラム修了者数		単位当たり コスト	百万円/人	1.7	1.2	1.4	1.6			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	年間100人以上のエキスパート人材の育成 ※エキスパート人材…プログラム修了者のうち博士号取得者		本事業におけるエキスパート人材の年間育成数	成果実績	人	83	88	71	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	技術士試験の合格証の発行や、技術士制度に関する調査検討委員会の開催等を行う。			目標値	人	100	100	100	-	-	
	本事業の年次報告、中間報告等によって確認			達成度	%	83	88	71	-	-	
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	技術士試験合格者への合格証の発行や技術士制度に関する調査検討を行う。		技術士登録者数 ※当初見込みは設定していないためとしている。	活動実績	人	94,118	95,072	97,251			
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込			
	技術士法の施行にかかる執行額/新規技術士登録者数		単位当たり コスト	千円/件	0.7	0.1	0.1				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	-		-	成果実績	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	定量的な目標が設定できない理由			目標値	%	-	-	-	-	-	
	本事業は、技術士試験の合格証の発行や、技術士制度に関する調査検討委員会の開催等を行うものであることから、成果目標を定量的に示すことは困難である。			達成度	%	-	-	-	-	-	
定量的な成果目標 が設定できない 理由及び定性的な成果目標	代替目標		代替指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	技術士試験の合格証を発行する。		合格証の発行	実績	-	7,356	8,803	7,972	-	-	
事業の妥当性 を検証するた めの代替的な 達成目標及び 実績	代替目標			目標値	-	-	-	-	-	-	
	該当箇所			達成度	%	-	-	-	-	-	
政策評価、 新経済・財政 再生計画と の関係	政策 評価	政策 評価	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化								
			8-1 科学技術・イノベーションを担う人材力の強化		政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20220829-mxt_kanseisk01-000024706-03.pdf					
	新経済・財政 再生計画 取組事項		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:		該当箇所	達成目標1指標3, 4, 5, 6					
			該当箇所								

事業所管部局による点検・改善						
	項目	評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)に基づいて国として進めることが必要な施策であり、ニーズの高い事業である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)に基づき実施している施策であり、国全体としての取組が必要となるため、地方自治体に委ねることが出来ない事業である。			
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)に示されている目標の実現のための施策であり、政策目的の達成手段として必要であり優先度の高い事業である。			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	事業の実施にあたっては、応募機関からの提案内容を外部有識者委員会等において公正・中立に審査し、競争性の確保を図っている。なお、一者応札になった事業については、十分な公告期間の確保に努める等、競争性の確保のための取組を行っている。			
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	国費の効率的な投入と、事業実施機関における自主経費の支出のバランスに考慮した事業運営を行っている。			
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	国費の効率的な投入と、事業実施機関における自主経費の支出のバランスに考慮した事業運営を行っている。			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	卓越研究員事業の執行にあたっては、日本学術振興会が、研究機関からの交付申請の審査や額の確定調査において、支出の合理性・用途について適切であることを確認することとしており、合理的な支出に努めているものと認められる。			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	公募要領により、費目・使途を適切を適切なものに定めている。さらに、額の確定調査において、支出の合理性・用途について適切であることを確認しており、事業の効率性の確保に十分取り組んでいると認められる。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	公募要領により、費目・使途を適切を適切なものに定めている。さらに、額の確定調査において、支出の合理性・用途について適切であることを確認しており、事業の効率性の確保に十分取り組んでいると認められる。			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	公募要領により、費目・使途を適切を適切なものに定めている。さらに、額の確定調査において、支出の合理性・用途について適切であることを確認しており、事業の効率性の確保に十分取り組んでいると認められる。			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-			
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-			
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	国費の効率的な投入と、事業実施機関における自主経費の支出のバランスに考慮した事業運営を行っている。			
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	概ね成果目標に見合った成果実績が上がっている。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	概ね見込みに見合った活動実績が上がっている。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	事業の実施にあたっては、補助期間終了後も機関による自主的な取組が継続されるよう努めている。			
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-			
関連事業	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施にあたっては、応募機関からの提案内容を外部有識者委員会等において公正・中立に審査し、競争性の確保を図っている。 額の確定調査を行い、支出の合理性・用途について適切に確認している。 事業は着実に実績を上げている。 				
	改善の方向性	引き続き、各事業について効果的・効率的な運営を行い、科学技術に関する人材の着実な養成・活躍促進に努める。				

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

の事 一業 部内 改容	この事業のうち、委託事業においては一者応札となったものがあることから、説明会参加業者等への聴取や仕様の見直しなど実効性のある対策について検討が必要である。
----------------------	---

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

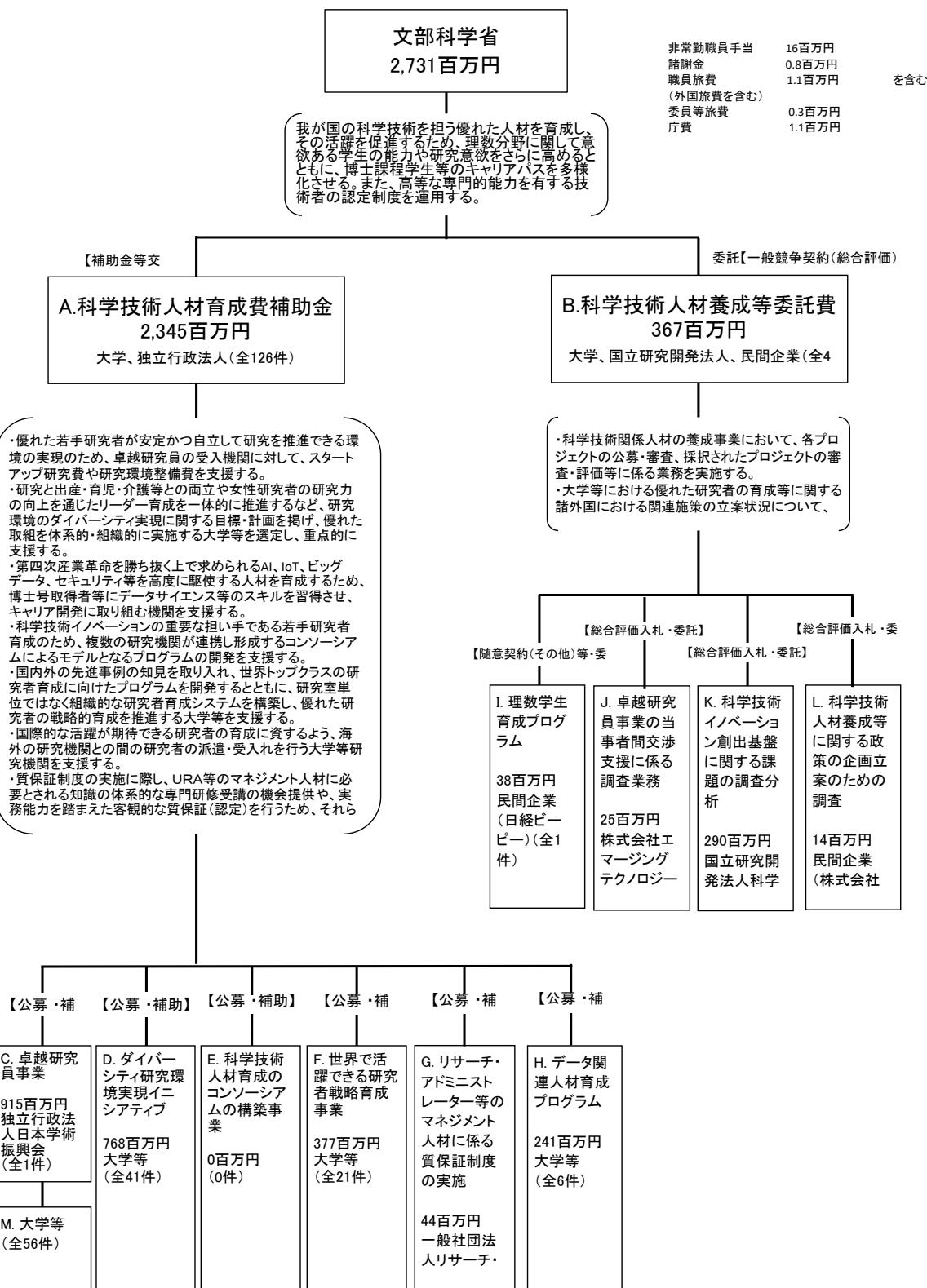
執 行 等 改	過去の入札説明会参加機関等を含めアンケートを行い、仕様の見直し等を検討し、引き続き競争性の確保に努める。
------------------	--

備考

関連する過去のレビューsheetの事業番号

平成23年度	28201			
平成24年度	205			
平成25年度	181			
平成26年度	178179			
平成27年度	167169			
平成28年度	新28-0012	新29-0024	196	197
平成29年度	205			
平成30年度	205			
令和元年度	文部科学省 -	0196		
令和2年度	文部科学省	0199		
令和3年度		0212	0213	

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.独立行政法人日本学術振興会			B.国立研究開発法人科学技術振興機構		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	間接補助事業交付分	卓越研究員の研究費等	825	人件費	業務担当者の人件費	202
	人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	40	業務実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	80
	事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	33	一般管理費 (2.7%)	上記経費の2.7%	8
	設備備品費	設備備品を取得、製造又は効用を増加させるための経費	17			
	計		915	計		290
	C.独立行政法人日本学術振興会			D.国立大学法人山梨大学		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
間接補助事業交付分	卓越研究員の研究費等	825	人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	33	
人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	40	事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	17	
事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	33				
設備備品費	設備備品を取得、製造又は効用を増加させるための経費	17				
計		915	計		50	
E.-			F. 国立大学法人京都大学			
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
	該当なし		人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	42	
			事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	39	
計		0	計		81	
G.一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会			H.国立大学法人大阪大学			
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	37	人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	48	
人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	7	事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	22	
計		44	計		70	
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載					チェック	<input checked="" type="checkbox"/>

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一 者 応 札・一 者 応 募 又 は 競 争 性 の な い 随 意 契 約 と な つ た 理 由 及 び 改 善 策 (支 出 額 10 億 円 以 上)
1	独立行政法人日本学術振興会	1010005006890	卓越研究員事業に係る公募・審査等業務を実施する。 (卓越研究員事業)	915	補助金等交付	-	--	
2	国立大学法人京都大学	3130005005532	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。 (世界で活躍できる研究者戦略育成事業)	81	補助金等交付	-	--	
3	国立大学法人大阪大学	4120905002554	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。 (データ関連人材育成プログラム)	70	補助金等交付	-	--	
4	国立大学法人京都大学	3130005005532	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。 (卓越研究員事業)	68	補助金等交付	-	--	
5	国立研究開発法人科学技術振興機構	4030005012570	効果的なプログラムを効率的に開発するため、各機関の知見の集約・分析や海外の先進事例等に関する情報の収集・分析を行い、我が国の研究者育成プログラムの標準モデルや共通メニューの開発を行い、開発されたプログラムの普及に向けた方策の検討を行う。 (世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業)	67	補助金等交付	-	--	
6	国立大学法人広島大学	1240005004054	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。 (世界で活躍できる研究者戦略育成事業)	60	補助金等交付	-	--	

7	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	2050005005211	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。 (卓越研究員事業)	57	補助金等交付	-	-	-
8	国立大学法人東北 大学	7370005002147	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。 (世界で活躍できる研究者戦略育成事業)	51	補助金等交付	-	-	-
9	国立大学法人山梨 大学	9090005001670	研究と出産・育児・介護等との両立や女性研究者の研究力の向上を一体的に推進するなど、研究環境のダイバーシティ実現を図る取組を行う。 (ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ)	50	補助金等交付	-	-	-
10	学校法人東京女子 医科大学	5011105000937	研究と出産・育児・介護等との両立や女性研究者の研究力の向上を一体的に推進するなど、研究環境のダイバーシティ実現を図る取組を行う。 (ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ)	50	補助金等交付	-	-	-
11	国立大学法人東京 大学	5010005007398	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。 (卓越研究員事業)	49	補助金等交付	-	-	-

B

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となつた 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立研究開発法人 科学技術振興機構	4030005012570	科学技術基本計画に基づき実施される事業における課題の公募・審査・推進・評価等に係る事業を推進するとともに、当該事業の課題・問題点の調査・分析を行う。 (科学技術イノベーション創出基盤に関する調査分析業務)	290	一般競争契約 (総合評価)	2	89.1%	-
2	株式会社日経ビーピー	4.0104E+12	科学分野を学ぶ学部生等が自主研究を発表し切磋琢磨し合う場(サイエンス・カンファレンス)の運営を行う。 (理数学学生育成プログラム)	38	一般競争契約 (総合評価)	3	91.9%	-
3	株式会社エマージン グテクノロジーズ	8050001016933	卓越研究員事業を効率的・効果的に実施していくために、国の補助事業に精通した機関に、卓越研究員候補者及び卓越研究員申請者と事業参画研究機関とが行う当事者間交渉を進めるに当たっての構造的な問題点等に関する分析・考察等の調査業務を委託し、事業の改善に向けた課題等に関する情報を得る。	25	随意契約 (企画競争)	1	100%	-
4	株式会社アカリク	4011001065110	若手研究者のキャリアパス多様化とポスト確保に向けた人材の育成・確保策に関して、調査分析等を実施する。	14	一般競争契約 (総合評価)	1	-	-

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百 万 円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応 募 者 数)	落 札 率	一 者 応 札・一 者 応 募 又 は 競 争 性 の な い 随 意 契 約 と な つた 理 由 及 び 改 善 策 (支 出 額 10 億 円 以 上)
1	国立大学法人京都大学	3130005005532	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	81	補 助 金 等 付 け	-	-	
2	国立研究開発法人 科学技術振興機構	4030005012570	効果的なプログラムを効率的に開発するため、各機関の知見の集約・分析や海外の先進事例等に関する情報の収集・分析を行い、我が国の研究者育成プログラムの標準モデルや共通メニューの開発を行い、開発されたプログラムの普及に向けた方策の検討を行つ。	67	補 助 金 等 付 け	-	-	
3	国立大学法人広島大学	1240005004054	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	60	補 助 金 等 付 け	-	-	
4	国立大学法人東北大学	7370005002147	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	51	補 助 金 等 付 け	-	-	
5	国立大学法人筑波大学	5050005005266	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	36	補 助 金 等 付 け	-	-	
6	国立大学法人東海 国立大学機構名古屋大学	3180005006071	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	22	補 助 金 等 付 け	-	-	
7	国立大学法人山口大学	9250005001134	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	10	補 助 金 等 付 け	-	-	
8	国立大学法人山形大学	8390005002565	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	7	補 助 金 等 付 け	-	-	
9	国立大学法人岩手大学	6400005002202	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	7	補 助 金 等 付 け	-	-	
10	国立大学法人秋田大学	2410005001280	世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、組織的な研究者育成システムを構築し、優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援する。	5	補 助 金 等 付 け	-	-	

G

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応 募 者 数)	落 札 率	一 者 応 札・一 者 応 募 又 は 競 争 性 の な い 随 意 契 約 と な つた 理 由 及 び 改 善 策 (支 出 額 10 億 円 以 上)
1	一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会	7220005008539	質保証制度の実施に際し、URA等のマネジメント人材に必要とされる知識の体系的な専門研修受講の機会提供や、実務能力を踏まえた客観的な質保証(認定)を行う。	44	補 助 金 等 付 け	-	-	

H

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応 募 者 数)	落 札 率	一 者 応 札・一 者 応 募 又 は 競 争 性 の な い 随 意 契 約 と な つた 理 由 及 び 改 善 策 (支 出 額 10 億 円 以 上)
1	国立大学法人大阪大学	4120905002554	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。	70	補 助 金 等 付 け	-	-	
2	学校法人早稲田大学	5011105000953	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。	41	補 助 金 等 付 け	-	-	
3	国立大学法人電気通信大学	5012405001286	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。	40	補 助 金 等 付 け	-	-	
4	国立大学法人北海道大学	6430005004014	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。	40	補 助 金 等 付 け	-	-	
5	国立大学法人北海道大学	6430005004014	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。	30	補 助 金 等 付 け	-	-	
6	国立大学法人大阪大学	4120905002554	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等を高度に駆使する人材の発掘・育成・活躍促進、ひいてはデータを利活用した未来社会の創造への貢献を図る取組を行う。	20	補 助 金 等 付 け	-	-	
支 出 先 上 位 10 者 リスト 欄 に つ い て さ ら に 記 載 が 必 要 な 場 合 は チ ェ ッ ク の 上 【 別 紙 3 】 に 記 載							チ ェ ッ ク	<input checked="" type="checkbox"/>

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブ ロ ク 名	契 約 先	法 人 番 号	業 務 概 要	契 約 額 (百万円)	契 約 方 式	入 札 者 数 (応 募 者 数)	落 札 率	一 者 応 札・一 者 応 募 又 は 競 争 性 の な い 随 意 契 約 と な つた 理 由 及 び 改 善 策 (契 約 額 10 億 円 以 上)
1	K	国立研究開発法人科学技術振興機構	4030005012570	科学技術基本計画に基づき実施される事業における課題の公募・審査・推進・評価等に係る事業を推進するとともに、当該事業の課題・問題点の調査・分析を行う。 (科学技術イノベーション創出基盤に関する調査分析業務)	1,383	一 般 競 争 契 約 (総 合 評 価)	2	89.1%	

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	I.株式会社日経ビーピー			J.株式会社エマージングテクノロジーズ		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	20	人件費	業務担当者の人件費	17
	人件費	業務担当者の人件費	14	業務実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	6
	一般管理費	上記の10%	3	一般管理費 (10%)	上記経費の10%	2
	計		37	計		25
	K.国立研究開発法人科学技術振興機構			L.株式会社アカリク		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	人件費	業務担当者の人件費	202	人件費	業務担当者の雇用に係る経費	8
	業務実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	80	業務実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、謝金等	4
	一般管理費 (2.7%)	上記経費の2.7%	8	一般管理費	上記経費10%	1
	計		290	計		13
	M.国立大学法人京都大学			N.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業実施費	事業を実施する上で必要となる旅費、消耗品費等	29			
	設備備品費	設備備品を取得、製造又は効用を増加させるための経費	28			
	人件費	業務担当職員及び補助者の人件費	11			
	計		68	計		0

I								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策(支出額10億円以上)
1	株式会社日経ビーピー	4.0104E+12	科学分野を学ぶ学部生等が自主研究を発表し切磋琢磨	38	一般競争契約 (総合評価)	3	91.9%	

J								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策(支出額10億円以上)
1	株式会社エマージングテクノロジーズ	8050001016933	卓越研究員事業を効率的・効果的に実施していくために、国の補助事業に精通した機関に、卓越研究員候補者及び卓越研究員申請者と事業参画研究機関とが行う当事者間交渉を進めるに当たっての構造的な問題点等に関する分析・考察等の調査業務を委託し、事業の改善に向けた課題等に関する情報を得る。	25	随意契約 (企画競争)	1	100% -	

K								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策(支出額10億円以上)
1	国立研究開発法人 科学技術振興機構	4030005012570	科学技術基本計画に基づき実施される事業における課題の公募・審査・推進・評価等に係る事業を推進するとともに、当該事業の課題・問題点の調査・分析を行う。	290	一般競争契約 (総合評価)	2	89.1% -	

L								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策(支出額10億円以上)
1	株式会社アカリク	4011001065110	若手研究者のキャリアパス多様化とポスト確保に向けた人材の育成・確保策に関して、調査分析等を実施する。	14	一般競争契約 (総合評価)	1	- -	

M								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契 約 方 式 等	入 札 者 数 (応募者数)	落 札 率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策(支出額10億円以上)
1	国立大学法人京都大学	3130005005532	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	68	補助金等交付	-	- -	
2	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	2050005005211	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	57	補助金等交付	-	- -	
3	国立大学法人東京大学	5010005007398	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	49	補助金等交付	-	- -	
4	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	6050005002007	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	43	補助金等交付	-	- -	
5	国立大学法人京都工芸繊維大学	2130005005533	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	40	補助金等交付	-	- -	
6	国立大学法人熊本大学	2330005002106	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	36	補助金等交付	-	- -	
7	国立大学法人金沢大学	2220005002604	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	34	補助金等交付	-	- -	
8	国立大学法人東北大学	7370005002147	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	31	補助金等交付	-	- -	
9	国立大学法人広島大学	1240005004054	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	26	補助金等交付	-	- -	
10	国立大学法人信州大学	3100005006723	若手研究者に対し安定かつ自立した研究環境を整備する。	26	補助金等交付	-	- -	